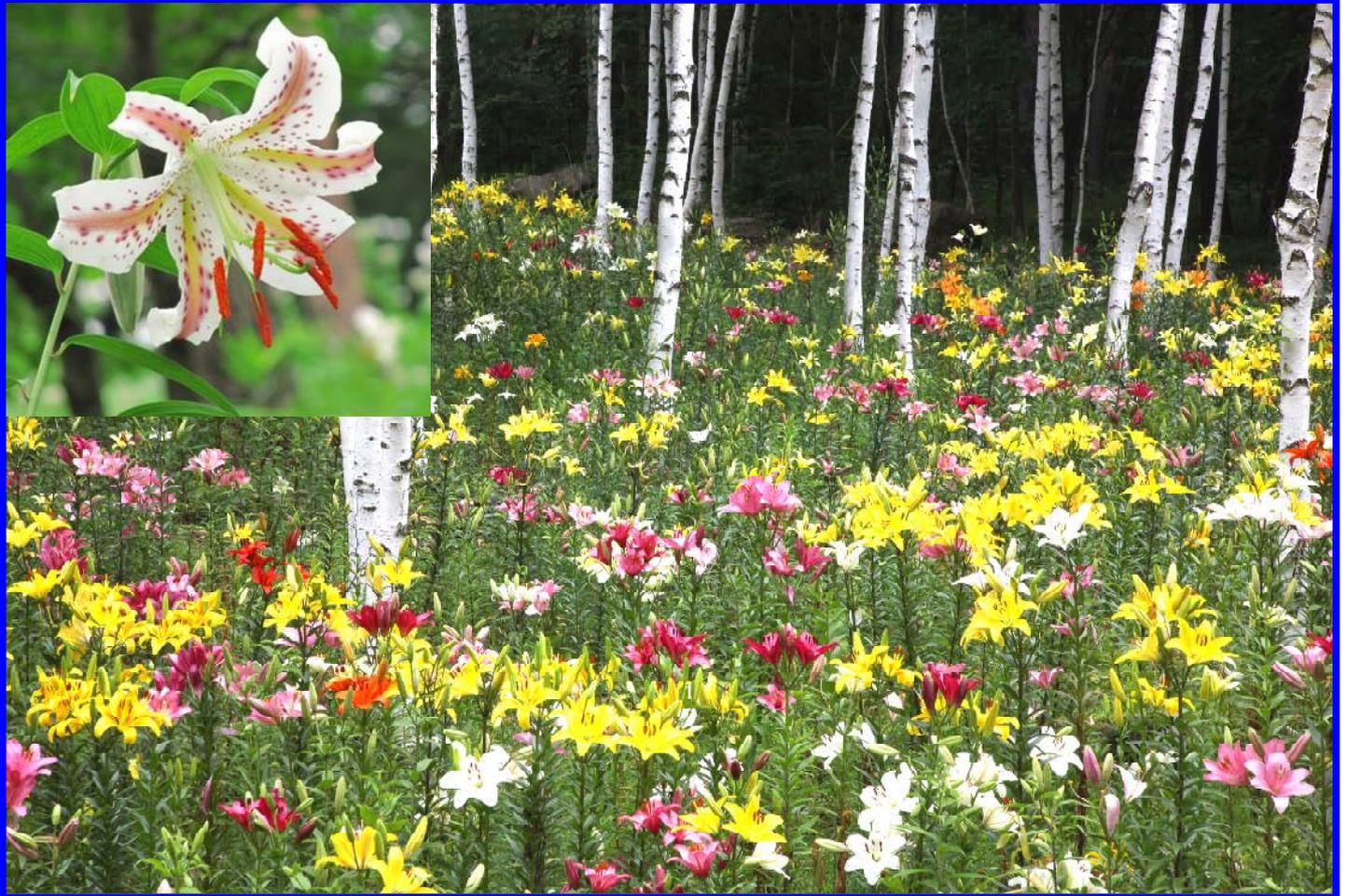


あおぞら



NPO 法人 あいかわ工房
 広報 VOL.37 2016.10.01
 編集 あいかわ工房編集委員会
 発行責任者 熊谷直丈
 ホームページ あいかわ工房 [検索](#)
 TEL 046-281-1157



「津久井やまゆり園」の献花台に花を手向け、手を合わせる人たち 29日、相模原市で

東京新聞 7月30日版より

大きな事件がありました

七月二十六日早朝からテレビニュースで伝わる内容を知り、大きな衝撃を受けました。

次々と入って来る、容疑者の話す内容に驚きと恐怖を感じて気持ちを整理することが出来ませんでした。

当所へ通ってくださる皆さんが同じ目に遭ったらと思うと、そして亡くなられた方、ご家族のことを考えた時に涙を止めることが出来ませんでした。

二十九日(金)に通常業務を午前中として、理事長と共に、6名で、利用者の皆さんと全職員の気持ちを献花に託して、亡くなられた皆様のご冥福を祈りに、津久井やまゆり園に伺いました。

負傷された皆様のお怪我の回復と、ご家族の皆様、職員の皆様の心に負われた、大きな傷の回復を心よりお祈り申し上げます。

献花を終えてから緊急の職員会議を開きました。災害や作業上の安全については避難訓練や、整理整頓など日常の事としてやっておりましたが、今回の事案のようなケースに対応するためにはどうするか。検討致しました。

① 今まで地域の方に、アルミ缶や石鹼の原料になる廃植物油などを持って来て頂けるので、入り口ゲートをオープンにしておりましたが、侵入を防ぐ第一手段として、ゲートはクローズして、来客には面倒でもインターホンでご連絡いただくことにしました。

② 侵入された時の対策として防犯器具を整備しました。(刺股・スプレー等)

③ 所轄の厚木警察に侵入犯に対しての、対応訓練を依頼しました。10月18日に生活安全課で講習をして頂きます。

④ 防犯カメラは以前より設置しており、5月に隣地駐車場を使用開始に当たり、カメラを増設してありますので、防犯カメラ作動中のステッカーによる、抑止効果もあるものと思います。

⑤ 何よりも全員の心構えが大切であり、それは普段の訓練と冷静な気持ちを失わないことで、毎月の職員会議で確認をしてゆくことにしました。





取材中



NHKの取材を受けました
 献花に行った時に報道陣から質問されて、あいかわ工房の名前を出しました。8月になってから、特報首都圏の記者が訪ねて来て、取材を申し込まれました。改めてディレクター・記者・カメラマン・音声などが来て3時間ほど収録して行きました。
 9月2日の午後7時30分からの特報首都圏の放送で、ほんの僅かですが放映されました。
 防犯対策と作業風景が映されました。利用者の皆様には予め映されても良い方とそうでない方を伺って対応させて頂きました。

東京新聞

人の命は同じように大切

神奈川県愛川町の障害者就労支援「あいかわ工房」理事長の瀧亀久男さん(八三) 障害者と接していて思うのは、人の命は同じように大切ということ。事件では自分の命やひとの命に対する考え方が戦時中に戻った感じがする。ヒトラーの名も取り沙汰されている。第二次世界大戦の亡霊が出てきた気がしています。



TV 放映 録画より





7月生まれ



10月4日屋外研修
 くりはま花の国と三笠公園
 に行きます。コスモスが一面に
 咲いていると思います。



7月生まれ

誕生日会
 7月生まれ～9月生まれ
 図書券または Quo カード
 のプレゼント



9月生まれ



8月生まれ



9月生まれ





9月1日 防災の日 シェイクアウト

ヘルメットの装着訓練
下肢に障がいのある方が多く通所されているので、身を屈める動作がし難いので、椅子の下側に備えてあるヘルメットを取り出して被る練習をしています。



去年の防災センターでの
地震の揺れ体験



作業台の下に入れる人は、台の下で体勢を保持します。

実際の地震では作業中の品物が散乱して、パニックになることも考えなければいけません。

11月には、防災センターでの体験型防災訓練を行います。



駐車場への非常用出口と
スロープを設置しました



編集後記

猛暑の夏、7月には台風の発生が殆どなく、8月に入ると矢継ぎ早に日本に接近したのが8個その内6個が上陸と例年を上回る数になり、各地に被害が発生しています。そんな時にいち早く現地に駆けつけて、お手伝いをされているボランティアの皆様には頭の下がる思いです。

災害を忘れない様に、東日本大震災での石巻の大川小学校由来のアサガオが今年も沢山の花を付けました。花の数だけ寄付をして少しでもお役に立とうと思っております。グリーンカーテンも作業場に柔らかな光を届けてくれました。ゴーヤも沢山収穫出来て皆さんにお持ち帰りいただきました。

7.26の事件以来、職員の心の中にも、利用者の皆さんの心の中にも虚しさ、悔しさ、表現できない大きなものが押し掛かっています。

でも、我々にできることは、考えられる対策を講じて、皆さんをお守りすることと考えています。

障がいのある方が普通に受け入れられる街づくりに、職員一同努力して参りたいと思っています。

N・K